

町田市バイオエネルギーセンター施設火災の復旧状況等について

町田市バイオエネルギーセンターでは、2022年2月から2023年11月にかけて、3件の施設火災が発生しました。施設の原状回復と再発防止のための安全対策を併せて進め、2025年7月に全て復旧する見込みです。

復旧時期や安全対策の内容、復旧費用及び費用負担について報告いたします。

1 火災の原因と被害状況

3件の施設火災では、ごみに混入したりリチウムイオン電池等が原因とみられています。

火災の被害に伴い、町田市バイオエネルギーセンターのごみ処理に影響が生じました。

	火災事案	被害設備	復旧時期	仮復旧までの期間	本復旧までの期間	ごみ処理影響期間
(1)	2022年2月 不燃・粗大処理施設 ごみピット火災	①建築設備 ②ごみクレーン設備	[仮復旧] 2022年3月下旬 [本復旧] 2025年4月	約 1ヶ月	約 3年2ヶ月	約 1ヶ月
(2)	2022年6月 不燃・粗大処理施設 破砕物搬送コンベヤ火災	コンベヤ設備	[本復旧] 2022年7月下旬	-	約 1.5ヶ月	約 1.5ヶ月
(3)	2023年11月 バイオガス化処理施設 前処理設備火災	①前処理設備 ②建築設備 ③ごみピット壁面	[本復旧] 2025年7月	-	約 1年9ヶ月	約 1年9ヶ月

仮復旧：応急的に運転できる状態にした時期 本復旧：試運転が完了した時期

2 復旧内容及び費用負担

施設停止に伴うごみの受入れ停止など市民生活に影響を及ぼさないよう、町田市と運営事業者との運営業務委託契約に基づき、復旧内容・範囲、概ねの費用について協議を行った上で、運営事業者が施設の復旧を行ってきました。

(1) 復旧内容(原状回復及び安全対策)

施設の原状回復と合わせて、火災の再発防止のための安全対策として、ガス(CO)検知装置や散水ノズルの設置等を行い初期消火及び延焼防止機能を強化しました。

	火災事案	主な安全対策の内容
(1)	不燃・粗大処理施設ごみピット火災	
(2)	不燃・粗大処理施設破砕物搬送コンベヤ火災	消火用散水ノズル増設 7箇所⇒29箇所
(3)	バイオガス化処理施設前処理設備火災	①ガス(CO)検知装置新設 ②消火用散水ノズル新設 10箇所 ③コンベヤ材質変更(ベルト式⇒金属製)

(2) 復旧費用及び費用負担

3件の火災被害の復旧費用は約14億円となります。

警察、消防署は、3件の火災原因を、リチウムイオン電池等の不適当な廃棄によって、ごみに混入したものとの見解を示しており、市及び運営事業者双方の故意や過失は確認されておりません。そのため不可抗力に該当する火災となります。

運営業務委託契約を基に、運営事業者と費用負担についての協議を進めており、2025年7月頃に確定する復旧費用を基に8月頃に協議を終える予定です。

また、火災共済金については、現時点で約12億円程度の試算で2025年度中に支払われる見込みです。

3 火災に伴う応援ごみ処理量及び費用

ごみ処理に影響が出た期間においては、多摩ニュータウン環境組合の構成市間の協定に基づき、多摩ニュータウン環境組合多摩清掃工場、八王子市戸吹クリーンセンター及び館クリーンセンターでごみ処理応援をしていただいております。

処理量については、2025年6月末まで、ごみ処理応援が続くため想定量になりますが、以下の通りとなります。

・多摩ニュータウン環境組合多摩清掃工場 約 8,000トン

・八王子市戸吹クリーンセンター 約 90トン

・八王子市館クリーンセンター 約 490トン

また、ごみ処理応援費用(ごみ処理費及び焼却灰運搬費)につきましては、約4,900万円の見込みです。

4 今後のスケジュール

費用の確定及び手続等について下記のスケジュールを予定しています。

・2025年5月から7月 復旧完了

・2025年6月から8月 復旧費用確定

・2025年9月 議会にて補正予算計上

・2025年度中 火災共済金申請及び受領

【参考資料】

被害施設、復旧時期及びごみ処理影響期間

(1) 不燃・粗大処理施設ごみピット火災(2022年2月)

①火災状況

不燃・粗大ごみピット(図1⑥)に蓄積されたごみから出火し、照明などの建築設備やクレーン(図1⑦)などが損傷しました。出火点はピット底部付近のごみと判明しましたが、原因は不明とされました。しかし、当時の状況からリチウムイオン電池等(以下、「Lib等」という。)が原因と推定されています。

②復旧時期とごみ処理に影響が生じた期間

損傷調査と並行して早急に仮復旧を行い、ごみ処理に影響が生じた期間は約1ヶ月でしたが、ごみクレーンの本復旧まで3年2ヶ月を要しました。

(2) 不燃・粗大処理施設破砕物搬送コンベヤ火災(2022年6月)

①火災状況

燃やせないごみに混入したLib等が高速回転破砕機(図1⑨)で衝撃を受け、後続のコンベヤ内で発火し、ごみに燃え移ったもので、コンベヤベルト及びコンベヤ本体が損傷しました。

②復旧時期とごみ処理に影響が生じた期間

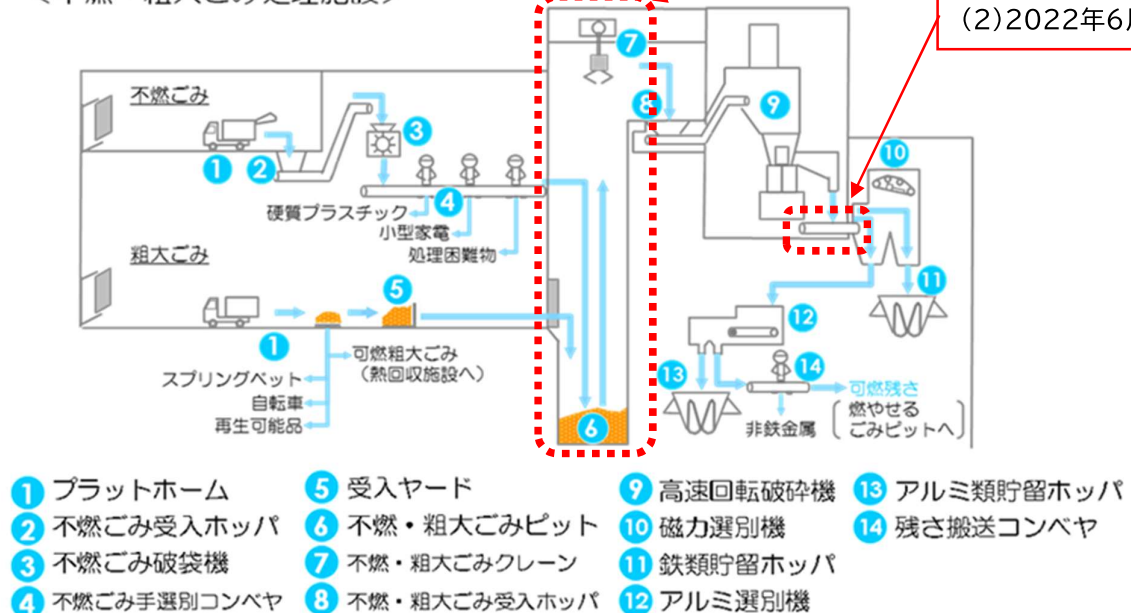
仮復旧できない状態のため、早急に損傷したコンベヤの撤去、交換及び安全対策を含めた復旧を進め、2022年7月下旬に本復旧しました。

約1.5ヶ月で本復旧し、ごみ処理を再開しました。

火災発生から本復旧まで約1.5ヶ月、ごみ処理に影響が生じました。

【図 1】

〈不燃・粗大ごみ処理施設〉



(3) バイogas化処理施設前処理設備火災(2023年11月)

①火災状況

燃やせるごみに混入したLib等が前処理設備(図2④から⑥)の破碎装置(図2⑤)で衝撃を受け発火し、破碎選別装置(図2⑥)内のごみに燃え移り、さらにコンベヤ内のごみに燃え広がりました。前処理設備の機器類や照明などの建築設備が損傷しました。

②復旧時期とごみ処理に影響が生じた期間

火災発生後、損傷調査等と並行して復旧方法を検討しましたが、設備の損傷範囲が広く仮復旧ができませんでした。ごみ処理再開に向けて本復旧を進め、現在試運転をしているところです。

火災発生から本復旧まで約1年9ヶ月、ごみ処理に影響が生じました。

【図2】

